



非認知能力を育むには

早いもので、今年も師走に入った。市内各所では、クリスマスに向けてのデコレーションが見られるようになってきた。この時期、気持ちが高ぶるのは、大人も子どもも同じではないだろうか。一般的には「非認知能力」とは何だろうか。私の理解では、テストなどで数値化することができない内面的な力という捉えである。具体的には、意欲、忍耐力、自制心等々いろいろあろう。これらの非認知能力を発揮するには、その人の気持ちが大きく関係していると思われているのではないか。以前読んだ本に「マシマロ・テスト成功する子・しない子(ウォルター・ミシエル著)」という本がある。テストの考察には賛否はあるが、おもしろい内容である。テストの概略は次の通りである。「幼稚園の4歳児にジレンマを突きつけた。報酬(例えばマシマロ)の一つを直ちにもらうか、一人きりで最長20分待つてより多くの報酬をもらうかのどちらかを選ばせた(原文より引用)」というものである。十数年後、我慢できたグループは我慢できなかったグループより、学力が高かったとのことや青年期の社会的認知機能の評価が高かったことや、自尊心も高く、目標を効果的に追求したり、ストレスへ効果的な対応ができた等々の考察がある。おそらく、人生のいろいろな場面で、認知能力を発揮するために、非認知能力をバランス良く活用して結果を出していったのであろう。長期にわたり継続観察したこと、幼児期に身に付いていた非認知能力(自制心等)が、その後も維持されていたことは驚きである。これは、幼児教育の重要性を示しているとも言えると思う。我慢できた子ども達は、ただ我慢していたのではなく、おやつを見ないようにしたり、独り言を言ったりなどして我慢したとある。これらの反応から、子どもなりにいろいろな戦略を考え、それらを用いることで我慢に打ち勝ったのであろう。昭和の時代、我慢と言えば、根性論や気合い論で養われるとの考えが一般的であった(私見です)。私自身も、いろいろな場面で「何でも気合いで乗り切れる」との根拠なき理由で、我慢を強いられたことを思い出す。昭和の時代に学生だった方には共感できるのではないだろうか。「マシマロ・テスト」から、子ども達に自制心などの非認知能力を育むには、報酬を2個ももらいたい子どもが、我慢の時間を延ばすためにいろいろな戦略を練って実践したように、個に応じた戦略が必要だと感じる。つまり、非認知能力を育むためには、気持ちではなく、その事を乗り切るための戦略を論理的に考えることができることが重要であるのではないだろうか。子どもにとつて、論理的に考え、実践したことを振り返り、自分に合った方法を発見していくことができれば、非認知能力は育成されるのではないかと。

皆さんの中には、ダイエットに取り組んだ方もいるだろう。成功した人もいれば、失敗し挫折を味わった人もいるだろう。私は、挫折した人は、気持ちが弱いからではないと思うのである。ダイエットしたい気持ちを実際の行動に反映するための戦略が合っていないことが原因だと考える。ダイエット成功中の私が述べるのだから多少説得力があるのではないかと。ダイエットのための自分に合った戦略が必ずあり、私は自分の戦略を論理的に述べることでできる(文字数の関係で省略)。非認知能力は、気持ちの部分の大部分ではなく、しっかりと力を発揮するために、論理的に考え、戦略を練って、体験を通してながら学んで身に付けて行く力だと思ふ。しかも、力を身に付けるための戦略は一つではなく、個別最適な戦略があるのではないだろうか。その事から非認知能力は、「思考力・判断力・表現力」のような学力の一つであると思うのである。

12月 研究所事業予定

15(木)	初任研⑫ 特別活動 代表授業	市内学校
-------	----------------	------

※初任者のグループ研究(特別活動)に係る取組

119期教育研究員

新垣 仁美 研究員(幼児教育)
 末吉 理恵 研究員(特別支援教育)
 狩俣 高志 研究員(小・道徳科)
 宮里 理枝子 研究員(中・道徳科)

12月中	検証授業(保育)・実践
------	-------------

初任研⑪【道徳科代表授業 11/17(木)】



道徳 A グループの授業風景



道徳 C グループの参観風景

【研修者の感想(抜粋)】

- グループ研修では、同期とともに共通の課題に対して検証授業を重ね、課題解決に向け様々なことを話し合い、学ぶことが出来ました。
- 道徳グループの皆さんが、一生懸命に考えた授業を見る事ができてとても貴重な時間でした。揺さぶりの発問や問い返しの発問、児童に自分事として捉えさせるために様々な工夫がされていて、とても勉強になりました。
- 代表授業に向けて、初任者だけでなく、学年の先生方や指導教員の先生からさまざまな意見をいただき、授業を多角的な視点で考えることができました。

新刊図書の案内



書名	著者
GIGA スクールのなかで教育の本質を問う	石井 英真
子どものやる気は「動き」で引き出す	阿部 真也
子ども理解と教育相談	鳥海 順子
通級による指導担当の仕事術100	増田 謙太郎

教育研究所の図書室には毎月10冊程度の新刊が入ってきます。図書搬送システムを利用した貸し出しもできます。詳しくは学校図書司書へ。